

普及活動情勢報告（令和5年7月分）

須崎農業振興センター農業改良普及課

今作も水稻のドローン防除が始まりました！ ～農事組合法人大野見野の風との打合せ～



ドローンを操縦している様子

6月6日に中土佐町大野見で、農事組合法人大野見野の風の令和5年度空中散布計画について、代表理事と中土佐町、当課の5人が話し合いました。

水稻防除開始にあたり、当課からは農薬の適正使用を説明し、作業受託状況などについて聞き取りました。

代表理事からは「近隣住民への声かけや、飛散による危害防止のために散布時間を考慮している」、「受託面積は前年度よりやや増える」との実態が把握できました。

当課は、水稻防除が安全に行われるよう、引き続き空中散布に係る啓発を行っていきます。

脱炭素を目指して ～令和5年度施設園芸グリーン化促進協議会通常総会～



実証中の地下水を熱源とする
ヒートポンプ導入施設

6月21日、JA土佐くろしおで、生産者3人と、メーカー、JA土佐くろしお、須崎市、農業イノベーション推進課、当課による協議会が開催され、昨年度実績及び本年度計画を承認しました。

協議会では、施設園芸の加温において燃油からの脱炭素化を進めるため、昨年度から地下水を熱源とするヒートポンプの現地検証を始めています。

当課は、JA等と共に、実証に取り組む生産者の状況の確認、データ分析等による導入効果の検証を進めていきます。

収量・品質の向上を目指して ～米ナス目慣らし会～



出荷規格の確認をする生産者ら

6月23日、JA高知県高西営農経済センターで、なす部会が米ナス目慣らし会を開催し、農家7戸9人が参加しました。

当課は、6月以降に草勢を低下させないための管理や、梅雨時期以降の病害対策について情報提供を行いました。

生産者は、出荷された米ナスを用いて、出荷規格について意見交換、確認をしました。

当課は、今後もJAと連携し、巡回指導・調査研究を通じて米ナスの収量向上を支援していきます。

品質管理を徹底し、市場事故を防止しよう ～ハウス後作オクラ出荷目慣らし会～



生産者と出荷規格を確認する
普及指導員

6月26日、JA土佐くろしお本所出荷場で、市場事故を防止するための出荷目慣らし会を、オクラ部会員9人が参加して開催しました。

当課は、JA土佐くろしお販売課・営農指導課と連携し、出荷規格や梅雨期における栽培管理と収穫後の保管について確認しました。

参加者から、「規格をしっかりと守り、品質確保に努めたい」「高温多湿期なので、収穫後の鮮度保持に注意したい」などの意見がありました。

当課は、今後も現地検討や個別指導を通じて適切な栽培・品質管理を徹底し、品質確保による出荷の安定化に取り組んでいきます。

津野山畜産公社のたい肥活用を推進 ～津野山地域営農連絡協議会畜産プロジェクトチーム会～



たい肥活用について話し合う
普及指導員ら

6月28日、梶原町の津野山畜産公社で、津野山地域営農連絡協議会畜産PT（JA、梶原町、津野町、西部家畜保健衛生梶原支所、当課）と、公社職員が参加して、本年度の牛ふんたい肥の製造・活用促進などについて協議しました。

当課がコーディネートして、畜産PTの昨年度実績と本年度の取組目標、月別行動計画を確認しました。

また、公社や梶原町から牛ふんたい肥製造の現状を聞き、全員で水稻等の栽培場面での活用を検討しました。

当課からは、水稻等での牛ふんたい肥活用による化学肥料の削減効果の実証試験の取組みを紹介しました。

当課は、今後も畜産PTの事業推進に関わり、耕畜連携でたい肥活用を進めていきます。

地域計画の策定に向けて ～梶原町担い手育成総合支援協議会～



真剣に話を聞く農業委員ら

6月30日、梶原町のゆすはら・夢・未来館で、梶原町農業委員及び農地利用最適化推進委員8人、関係機関職員6人で地域計画策定について協議しました。

町から、令和6年度末までに地域計画策定が必要であることが説明され、梶原町担い手育成総合支援協議会を協議の場として、集落戦略等を参考に策定していくこと、7月から地区座談会を始めることなどの提案があり、質疑の後、承認されました。

当課は、農業委員に期待される役割等について質問することで、参加者の情報共有を図りました。

参加者からは「農業委員を中心にアンケートをしたらどうか」等の意見がありました。

当課は、関係機関と連携しながら策定作業を支援していきます。

ニラの品質向上を目指して ～ニラ現地検討会～



真剣に話を聞く生産者ら

6月30日、須崎市でニラ部会が現地検討会を開催し、生産者4人が出席しました。

当課からは、株養成期のハウスが高温にならないよう注意喚起し、今の時期から発生が危惧されるネダニおよびネギアザミウマ防除について説明し、RACコードに基づいた薬剤ローテーション散布を啓発しました。

生産者からは、「環境測定データを確認しながらハウス管理をする」「同系統の農薬の連用に気をつける」といった声が聞かれました。

今後も、JAと連携した巡回等で防除を指導し、高品質なニラを生産できるよう支援していきます。

有機農業の推進がスタート ～須崎地域有機農業推進協議会～



有機農業の推進方策を共有

7月4日、須崎総合庁舎で、須崎市、中土佐町、梶原町、津野町、JA高知県、JA土佐くろしお、当課が集まり、須崎地域有機農業推進協議会を設立し、第1回協議会を開催しました。

まず当課が、国、県における有機農業推進施策の概要を説明し、本年度の取組みとして有機農業に関する調査等を提案した後、全員で協議会設立を承認しました。

その後、各市・町から有機農業者、有機農産物にかかる情報提供、JAから有機農業者の支援の考えについて紹介がありました。

当課は今後、事務局として有機農業に関する調査等の協議会活動を進めていきます。

新規就農者・就農希望者の農業基礎知識習得を支援 ～農業基礎講座～



土づくりの基本について講義する普及指導員

7月13日、須崎総合庁舎で、本年度1回目の農業基礎講座を開催し、新規就農者や就農希望者6人が参加しました。

当課は「土づくりの基本」について、外部講師からは「ハウスの構造」について、講義を行いました。

参加者からは「土壌分析をしてから施肥設計をする大切さが分かった」、「ハウスごとの構造の違いについて分かった」といった感想が聞かれました。

今後、植物生理や病虫害、経営などをテーマにした講座開催を予定しており、引き続き、新規就農者等の農業基礎知識習得を支援していきます。